

自衛隊職場体験(青少年広報)を実施 初めての体験に目を輝かせて・・・



第5航空群では、令和8年7月24日から26日の2泊3日で、第5整備補給隊司令(一等海佐志野雅一)を主任指導官として、沖縄県内外から集まった中高生39名に対して、自衛隊職場体験を実施しました。

今年度は過去最多の応募人数となり海上自衛隊への関心の高さが伺われ、また県外からの参加率が約60%と高く、遠方は北海道からの参加者もいました。

自衛隊職場体験は、海上自衛隊那覇航空基地内に宿泊して自衛隊の生活を体験するとともに、様々な職種の体験プログラムを通じて、海上自衛隊に対する理解を深めてもらうことを目的に中高生の夏休み期間に合わせて実施していますが、今年は台風の影響もなく晴天に恵まれての実施となりました。

初日は、緊張した面持ちの中、職場体験の概要を説明した後、まずは、隊員食堂で給養員が調理した海上自衛隊自慢のカレーを体験喫食し、みんな口をそろえて「美味しい!」と舌鼓を打っていました。

午後は開講式の後、那覇航空基地隊航空整備隊隊員による行進や敬礼などの自衛官としての基本的な所作・動作及びラッパ体験、衛生掛員によるAEDを使用する衛生処置法を体験しました。

夕食後は、航空自衛隊の厚生センター及び基地内にある旧海軍砲台跡地の見学を行った後、隊舎に戻り、初めての経験に少々不安を抱えながら、床につきました。



発行：沖縄二火会
(海上自衛隊第5航空群支援団体)
印刷：新栄印刷

2日目は、今回のメインイベントであるP-3C哨戒機の体験搭乗と第5整備補給隊に於いての職場体験学習を行いました。

体験搭乗では、民航機と自衛隊機の構造の違いに驚き、初めて見るコクピットからの沖縄の美しい空と海の風景に目を輝かせていました。

第5整備補給隊での職場体験では、各職種の概要説明にはじまり、プレートの作成体験、救命胴衣着用体験、プロペラブレーキ解除体験等々、日常生活では味わえない経験に緊張しつつも真剣な表情で取り組んでいました。

夕食と入浴を済ませた後は、海上自衛隊の広報ビデオ鑑賞、広報資料室の見学ののち、世話役の班長達との懇談を行い、すっかり打ち解けた様子で、笑顔が増え、積極的にコミュニケーションがとれるようになりました。

最終日は、お世話になった隊舎の清掃を行い、毎朝8時に掲揚される国旗掲揚の様子を見学したあと、第5航空群司令の執務室の見学及び群司令との懇談を終え、所感文及びアンケートを作成し、閉講式を迎えました。

閉講式に参列した参加者の顔は、初日とは比べ物にならないほど逞しく見えました。

最後は、今回親身になって指導してくれた第5整備補給隊司令はじめ各指導官と広報室員に見送られ、名残惜しうにバスの窓から手を降って2泊3日の職場体験を終了しました。

普段の生活とは違った貴重な体験とともに、同世代の参加者や自衛隊員と一緒に過ごした日々は、大きな成長につながったと思います。

参加者からは、「貴重な体験ができた」「来年もぜひ参加したい」「将来は海上自衛官を目指したい」といった嬉しい言葉もいただきました。

今回の体験を通じて一人でも多くの参加者が、海上自衛隊により興味を持ち、「平和を守る仕事」という仕事を職業選択の一つとして考えるきっかけになってくれたと思います。

(5空群広報室寄稿)



海自カレー体験喫食(給養職種)



ラッパ吹奏体験(地上救難職種)



心肺蘇生法体験(衛生職種)



体験搭乗(航空機搭乗員職種)



救命浮舟体験(航空武器整備職種)



エンジン整備体験(航空機整備職種)



群司令との懇談



見送り

海軍戦没者慰霊祭

日本海海戦121周年にあたる令和8年5月27日、沖縄県豊見城市の「海軍戦没者慰霊之塔」において「第64回海軍戦没者慰霊祭」が一般社団法人沖縄海友会主催により執り行われました。同行事には、第5航空群から、艦旗の掲揚・降下、ラッパ吹奏、儀仗隊による弔銃発射等の隊員の支援が得られました。

海軍沖縄方面根拠地隊司令官大田 實 海軍中将の三男である落合 峻氏をはじめとする御遺族、旧海軍出身者と海自OBからなる沖縄海友会(会長 門馬規雄氏)会員、陸・海・空自衛隊、沖縄地方協力本部の各指揮官及び先任伍長等が参列し、沖縄戦を含む先の大戦での戦没者に哀悼の誠が捧げられるとともに、恒久平和が祈念されました。

門馬会長は祭文で、大田司令官の、沖縄県民に対する憂いに思いを致され「沖縄県民斯く戦えり、県民に対し後世特別の御高配を賜らんことを」と結ばれた700字にのぼる海軍次官宛ての電文は、正に「歴史の証言」であり、戦争の悲惨さを切実に訴えておられ、恒久平和への祈りと誓いを新たにします。と述べてくれました。



沖縄海友会 門馬会長(祭文奏上)

極めて不安定な状況が各地で生じており、国防の重要性は誰もが認めるものとして現実性を増しており、日々緊張が高まる中において、我が国の防衛に、日々の努力を積み重ね、継続されておられる陸海空の自衛隊及び海上保安庁の皆様、改めて敬意を表します。

私達沖縄海友会は、県内に配備された自衛隊について、県民に対する防衛意識の高揚及び自衛隊に対する理解の促進について積極的に支援し、その崇高なる任務遂行が円滑に行われます様、県内各友好団体と協力し支援して参ります。」と述べられました。



艦旗掲揚



弔銃発射



事前清掃活動(海友会・5空群)





摩文仁の丘清掃ボランティアに参加して

那覇航空基地上曹会会長 木幡1曹

令和8年6月13日に海上自衛隊那覇航空基地上曹会(任意団体)は、摩文仁の丘清掃ボランティアを実施しました。この清掃ボランティアは、毎年6月23日(慰霊の日)に行われる沖縄全戦没者追悼式に先立ち、陸・海・空自衛官とその家族、また第5航空群の支援団体の沖縄二火会はじめ各自衛隊支援団体、在沖米陸海軍の有志で行われているもので、隊員の家族を含めた各団体等との親睦と相互の融和団結を図ることを目的としています。

当日は、梅雨の時期なので降雨を心配していましたが、好天に恵まれ、平成8年に合同ボランティアになってから過去最高の参加人数となる1,090人の方が参加されました。

摩文仁の丘は、糸満平和祈念公園内に所在し、沖縄戦における日本陸軍の司令部が置かれ、組織的戦闘が終結した終焉の地です。

日米の軍人だけでなく、地域住民の多くの人々が巻き込まれ、ここで亡くなられました。

現在、私たちが見ている平和な景色は、先人のおかげであり、毎年清掃活動等を行い、この平和な姿を見ることが、亡くなられた方々に対しての追悼にも繋がり平和を維持につながると思います。

清掃活動後には、代表者による献花をおこない、追悼の意を持って終了しました。



今後も我々は現代の平和な世の中を生きる者として、先人の思いを後世に伝えていかなければと強く感じました。



防衛・基地モニター行事



令和8年4月10日、第5航空群において令和8年度防衛・基地モニター委嘱行事が開催されました。

防衛モニターとは、基地周辺に住する一般の方から選考し、陸・海・空自衛隊に対する意見や要望等を聴取し、各地域に密着した広報活動を推進するとともに、部隊等における諸施策の改善・向上を図ることが目的とされている防衛省の公聴制度です。

また、基地モニターの目的は防衛モニターとほぼ同じですが、海上自衛隊及び第5航空群で活動していたく海上自衛隊の公聴制度です。

第5航空群では、防衛モニター1名、基地モニター5名の方が毎年度



委嘱され、それぞれ任期の2年間、第5航空群の活動や行事等に参加されています。(防衛モニターは、海上自衛隊だけではなく、沖縄地区の陸、空自衛隊の活動や行事にも参加)

令和8年度委嘱防衛モニターには、防衛事務次官からの委嘱状(第5航空群司令代読)、令和8年度委嘱基地モニターには、第5航空群司令(海将補 濱野寛美)からの委嘱状が授与されました。

濱野群司令は、「本防衛及び基地モニター制度は、海上自衛隊の活動及び第5航空群における活動・取り組みについて広く知っていただくとともに、率直なご意見やご提言を賜る貴重な機会であると考えております。」

今後の活動として予定する部隊見学や意見交換等を通じ、第5航空群の現状や役割について大いに理解を深めていただくとともに、忌憚のないご意見をお寄せくださいますようお願い申し上げます。」と挨拶し、今後の活動への期待を膨らませていました。

委嘱状授与行事の後は、モニターと第5航空群指揮官等との会食及び懇談が行われ、給養班自慢の海上自衛隊カレーを堪能していました。

その後、モニターの方々には、モニター制度及び第5航空群概要の説明、航空機見学が行われ、海上自衛隊の理解促進のための第一歩を踏み出しました。

なお、第5航空群では毎年、基地モニターの募集が行われており、例年10月頃に募集案内が公表されています。詳しくは第5航空群ホームページをご覧ください。



那覇航空基地自衛官ファミリー

このコーナーでは、海上自衛隊那覇航空基地内で勤務する「夫婦」「親子」「兄弟・姉妹」にスポットをあて「自衛官ファミリーの絆」を紹介します。

第13回目は、第5整備補給隊で勤務する阿部夫妻の紹介です。

質問事項

- ① 職種(仕事内容)
- ② 出身地
- ③ 出会った場所(部隊)
- ④ 同じ基地内で勤務しての感想
- ⑤ お互いに一言！
(感謝や要望等)



第5整備補給隊 阿部♡夫妻



① 【夫】航空機体整備

妻と職種は同じですが私は飛行支援掛に所属しており、航空機を安全に飛ばすため飛行前後の点検や発着誘導等を行っています。

【妻】航空機体整備

航空機体整備員として、航空機の胴体・主翼・降着装置(脚)をはじめとする機体構造全般の整備を担当しています。現在は検査掛に所属し、航空機の定期整備や不具合発生時の点検、部品交換を行い航空機の安全な運航を支えています。

② 【夫】山口県

【妻】鹿児島県

③ 職場(第5整備補給隊機側整備隊)

【夫】同じ職種、職場で働く難しさを感じる事はありませんが、共通の話題や出来事を共有できる楽しさもあります。

【妻】同じ職種、職場で勤務していることとお互いの仕事内容を理解し、仕事の悩みや喜びを共有しながら互いに支えあって勤務できることにやりがいを感じます。

④ 【夫から妻へ】家族でもあり頼れる同僚でもあります、永い自衛官生活お互い支えあって頑張っていきましょう。いつもありがとう!!

【妻から夫へ】仕事に一生懸命取り組む姿をいつも頼もしく思っています。家でももう少し頑張ってくれたら100点です!!(笑)いつもありがとう。

着任のご挨拶



第5航空群司令部
首席幕僚
1等海佐 竹本 勝昭

令和8年6月12日に第5航空群司令部首席幕僚として、航空集団司令部(厚木)から着任しました竹本です。

初めてであり、ここ沖縄の地で勤務できることを大変嬉しく思っています。この貴重な機会に美しい自然に囲まれ、素晴らしい伝統文化を有し、人情あふれた当地において、自然・伝統文化に触れ、充実した毎日を過ごしたいと思っています。

さて、我が国周辺の安全保障環境は戦後最も厳しく複雑といわれるなか、沖縄周辺海域は国際政治の表舞台として周辺諸国や関係国が関心を寄せ、しのぎを削る最も熱い海の一つです。

そうしたなか、第5航空群は第5航空群司令指揮の下、活発な行動を続ける中国海軍艦艇・潜水艦や尖閣諸島から先島諸島周辺の中国公船等に対し警戒監視を実施するとともに防衛・警備、災害派遣に迅速に対応するため厳しい訓練を重ねております。

このような厳しい安全保障環境下にあっても、我々が勤務にまい進できるのも平素から本誌「でいご」を刊行いただいている沖縄二火会をはじめ、各自衛隊協力団体の皆様や地域の皆様からの第5航空群に対する温かいご理解とご支援の賜物であると感謝しております。皆様から頂く励ましは私達にとって大きな力となっております。今後も皆様の信頼に応えられるように隊員一同職務にまい進してまいりますので今後とも変わらぬご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

着任のご挨拶



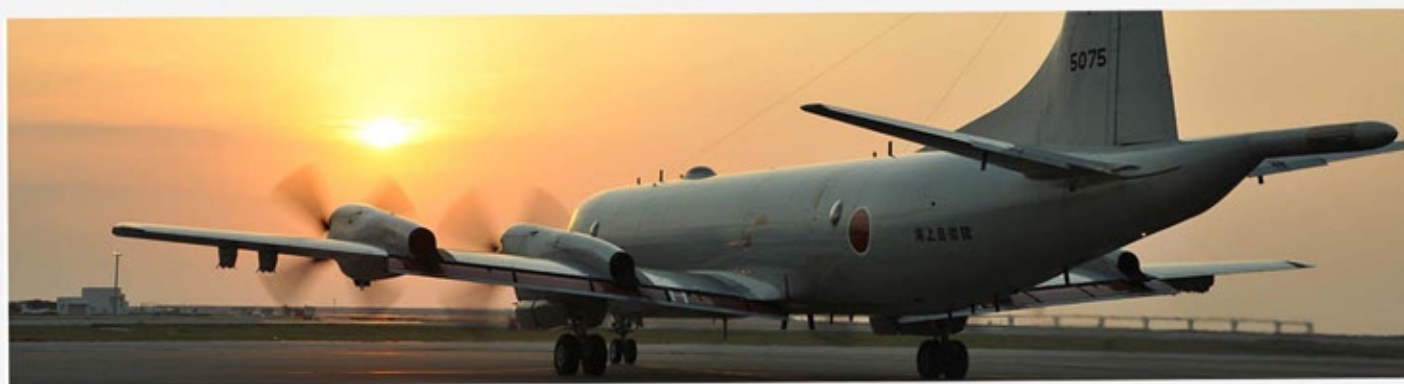
第5航空隊先任伍長
海曹長 緒方 昌俊

令和8年4月1日付で第5航空隊先任伍長を拝命いたしました緒方です。

これまでは、当隊の先任伍長補佐として勤務していました。現在は、先任伍長として勤務しつつ、主特技である非音響対潜員(主に機上でリーダーを操作する職種)としてP-3C哨戒機に搭乗し、東シナ海の警戒監視に従事しています。今後は、本年3月から運用を開始したP-1哨戒機にも搭乗し、安全絶対の精神のもと「美ら海の防人」として、フライトに臨みます。

先任伍長として、常に「明るく、楽しく、元気よく」前向きな気持ちを忘れず、キャプテンシー(チームを統率する力と指導力)を発揮することにより、リーダーを補佐し、規律の維持、士気高揚、団結の強化と「組織力の強化」に寄与するとともに、当群隷下部隊先任伍長と協力し地域の皆様からも信頼される部隊であるよう尽力していく所存です。

これからも、ご支援とご厚情を賜りますようお願い申し上げます。



着任のご挨拶

那覇航空基地隊前任伍長
海曹長 金城 逸人

令和8年1月1日付、第11代那覇航空基地隊前任伍長の金城です。

職種は、固定翼の

航空機整備員で、令和4年に第5整備補給隊から那覇航空基地隊へ異動後、就職支援室を経てこの度、前任伍長の重責の任に就きました。

沖縄県南風原町出身で現在の第5航空群先任伍長、第5整備補給隊先任伍長と同じ出身のため、いろいろとアドバイスをいただいております、大変心強い存在です。

さて、先任伍長としての任務は、規律及び風紀の維持、部隊の団結強化及び、曹士の士気高揚です。これらを成し遂げるには、隊員と事務官との信頼関係を構築し、一人ひとりの協力が必要になってきます。そのためには、私の明るい性格と実行力を活かし、那覇航空基地隊司令の指導方針である「本質の追求」を実践できる環境づくりに取り組み、第5航空群の任務達成を支える支援部隊の維持、発展に貢献できるよう全力を尽くしてまいります。

また、各種ボランティア活動を通じて協力団体及び地域自治体との交流を深め、地域との信頼関係の醸成にも努めてまいります。

今後とも、皆様の変わらぬ御指導と御協力を賜りますようお願いいたします。

那覇航空基地上曹会
会長交代しました！那覇航空基地隊管理隊
木幡 1曹

1曹と申します。

那覇航空基地上曹会とは、海上自衛隊那覇航空基地に勤務する上級海曹（海曹長及び1等海曹の階級の隊員）の中から、各種事業活動に賛同する有志で構成している任意団体です。上曹会は、会員の融和・親睦を図り上級海曹としての地位を向上させるとともに、各種行事やボランティア活動等を通して、中級海曹（2等海曹）以下の隊員に模範を示し、道徳心の涵養に努めることで隊務の運営に寄与することを目的として活動を行っています。

令和8年4月に行われた年度総会で、新会長をはじめ副会長以下3名の新役員が選出されました。

今年度も、これまでの役員の活動理念を継承しつつ、各種ボランティア活動や各種行事等へ積極的に参加し、隊員家族をはじめとする地域の方々との交流及び親睦に寄与していきたいと考えておりますので、皆様には前任者同様、引き続きご理解とご協力を賜りますようお願いいたします。

広報誌「でい

ご」をご愛読の

皆様、初めまし

て。令和8年度

那覇航空基地上

曹会会長の木幡

海軍墓域の掃
掃ボランティア

摩文仁の丘清掃ボランティア



第5航空隊「初機長フライト」紹介

海上自衛隊第5航空隊において「初機長フライト」を終えたP-3C哨戒機の搭乗員に感想を伺いましたのでご紹介します。

「初機長フライト」とは、操縦士・戦術航空士が、初めて機長として航空機に搭乗して運航するフライトのことです。

初機長フライトに至るまでには多くの訓練を要し、各段階

の検定をクリアし、機長として飛行作業に臨むに相応しい知識・技能を備えていると認められなければなりません。そのため、操縦士・戦術航空士にとって「初機長フライト」は、搭乗員人生の中で一つの大きな節目とも言えるフライトになります。

まずは、機長としての第一歩を踏み出すことができます。感動と緊張感の入り混じる初めての機長フライトは、天候に恵まれ沖繩の美しい景色を一望するとも思いうれしに残るものになりました。ここまでたどり着くことができたのも、これまでご指導いただいた教官や諸先輩方をはじめ、訓練を行うために支援していただいた多くの方々のおかげだと思っています。この場を借りて感謝を申し上げます。

また、朝が早い訓練の時に毎回朝ごはんのおにぎりを作ってくれた妻のおかげで体調も崩すことなく順調に訓練に取り組むことができたと思っています。初機長フライトを終え、司令をはじめ飛行隊の皆様や数多くのサポートしてくれた家族に迎えてもらい、祝福を受けた時の感動は今でも忘れられません。

機長になることは、搭乗員として一つの大きな関門であり、また通過点だと思います。国防の最前線ともいえるこの東シナ海を守る第5航空隊の搭乗員の一人として、航空機の安全を支える操縦士として、そして任務の中核を担う機長としてさらなる成長を遂げられるようこれからも精進していきたいと思っています。



令和8年4月26日
初機長フライト



第5航空隊 第51飛行隊所属
森崎1尉



P-1 型哨戒機の電気系統整備



P-3C 型哨戒機の電気系統整備

また、苦業を共にする仲間との強い絆も大きな魅力です。今後も航空機整備の知識と技術の向上に努め、任務に貢献できる隊員を目指して努力していきます。

趣味は、ゴルフとキャンプです。休日は自然の中でリフレッシュしながら心身の健康維持に努めています。自衛隊の魅力は、国や地域の安全を守るといふ大きな使命感を持って働けることに加え、さまざまな訓練や業務を通じて自身を成長させられることだと感じています。



第5整備補給隊 中川3曹 (那覇市出身)

うちなんちゅ(沖縄出身)隊員紹介

私は沖縄県那覇市出身で、那覇西高等学校を卒業後、海上自衛隊に入隊しました。現在那覇航空基地にある第5整備補給隊航空機整備隊に所属し、航空機の安全な運航を支えるため、日々責任感を持って整備業務に取り組んでいます。



大原簿記公務員専門学校の 部隊見学支援を実施して

司令部広報室 下栗1曹

5月21日に第5航空群は大原簿記公務員専門学校(那覇市)の先生1名以下13名の学生に対し部隊見学支援を行いました。

今回は事務系職種の見学を要望されていたので、経理隊、厚生隊、補給隊の職場見学及び実際に現場で勤務する隊員に仕事内容等について説明を行ってもらいました。

普段、自衛隊の職場を見る機会のない学生たちは、驚きと好奇心をみなぎらせ、興味津々に目を輝かせながら、隊員の説明に聞き入り、説明を行った隊員に対し「一般の会社と自衛隊での勤務の違いはありますか?」「自衛隊に入隊すると、こういった資格を取得できるんですか?」等々たくさん質問がありました。

参加された皆様の興味や関心は、沖縄の太陽(ていだ)にも負けない熱量で、とても有意義な1日になった様子でした。

今回の部隊見学支援を通して、海上自衛隊の職種に興味を持ち、将来の職業選択の一つとして海上自衛隊を視野に置いていただけたら幸いです。



宜野湾はごろもハーリー2026に参加して

那覇航空基地隊 天久士長

令和8年7月5日、宜野湾港マリーナで開催された「宜野湾はごろもハーリー2026」に第5航空群から2チームが出場しました。

当日は、天気にも恵まれ、大快晴の中ハーリーを漕ぐことができ第5航空群各チームも気合と士気も高まり、大会に挑みました。

結果は、群司令始めとする5空司令も参加した搭乗員チーム「海上自衛隊5空群ガチ漕ぎ隊」は同じ組の陸上自衛隊チームを大きく引き離すレースをしてい

ましたが、まさかのゴール前でコースアウトしてしまい失格。

5整備隊及び那空基混合チーム「海上自衛隊5空群オールスター」は同じ組のチームとゴール前までデッドヒートを繰り広げ勝利を収めました。

残念ながら決勝トーナメントまでは進出できませんでしたが、参加者全員笑顔で楽しくハーリー漕ぎました。また、地域住民とも交流することができ充実した一日となりました。



ガチ漕ぎ隊メンバー



オールスターメンバー

海上自衛隊 職種紹介

このコーナーでは、海上自衛隊第5航空群において勤務している隊員及び職種について紹介します。

初めに海上自衛隊は、主として「海」を行動の場としています。周囲を海に囲まれた我が国にとって、海の安全を守ることが非常に重要であり、日夜、日本周辺海域において、警戒・監視活動等に従事し、日本の安全を守っています。また、災害等が発生した際には、艦艇や航空機を派遣し、捜索、救助、救難物資の輸送等を行っています。

今回紹介する職種のほかにも、航空管制員や調理員、電子整備員など、多数の職種があり、16職種において49職種の業務が行われています。

その中から今回は、那覇基地隊で衛生掛長として勤務している隊員を紹介いたします。

質問事項

① 仕事内容

② 将来の目標

③ これからの将来を決めていく後輩たちへのメッセージ

那覇航空基地隊…本部衛生掛長

田尻 2 尉

① 海上自衛隊における衛生員は、那覇基地において隊員の健康を守る、いわば「海の守護神」のような存在です。その役割は多岐にわたりますが、大きく分けると以下の3つの柱があります。

1 基地内急患対応（命を守る!!）

2 健康管理・健康診断・予防医療

（病気を未然に防ぐ!!）

3 医薬品・医療器具の管理

（備えあれば憂いなし!!）

② 那覇地区隊員が健やかに、全能を発揮できるように、限られた人員と資材の中で、効率的に隊員の健康を守るための「仕組み作り」（標準化・マニュアルの整備・マルチスキルの発揮）、（腹案・リスクアセスメント）、（情報の最適化…無駄の削減）に尽力し、医療体制、態勢の最適化を目標としています。また有事などの混乱した状況下でも、的確な判断を下し、医療リソース（人力・医療品・施設・情報）を最適に配分できるような衛生医事幹部を目指しています。

③ 衛生員という仕事は、誰でもできる、誰でもいいわけではありません。あなたしかできず、あなたでなくてはけません。那覇地区の隊員総員が安心して任務を遂行するために、那覇基地という場で戦い続けるた

めの基盤を「作り」「守る」ことが大切です。そのために私たち衛生員が、隊員一人ひとりの健康を支えることは、部隊の能力を維持向上させることに直結しています。冷静かつ迅速な処置が、誰かの命を救い、自衛隊の任務を完遂させる力になるのです。自分たちの仕事に「重み」と「誇り」を持って職務を全うして頂ければと思います。



東洋英和女学院大学 部隊見学を支援して

司令部広報室 今村曹長

6月12日に第5航空群は東洋英和女学院大学(横浜市)の教授2名以下、20名の学生に対し部隊見学支援を行いました。

今回は、自衛隊の部隊見学を実施することにより、防衛省・自衛隊の現状に対する認識を深め、わが国の防衛及び自衛隊・防衛問題に対する理解と認識を深めることを目的に、第5航空群の部隊見学に來隊いただきました。

当日は、梅雨の時期の降雨も心配されましたが、梅雨の合間の曇り空の中、航空機見学においては、学生の皆さんは初めて見る海上自衛隊の哨戒機の大きさに驚き、パイロットから興味深そうに説明を受けていました。また、現状説明においては、数々の質問があり海上自衛隊への興味が尽きませんでした。

今回の第5航空群の基地見学支援を通して、海上自衛隊に対する理解の深化を図ることができたと考えます。





令和7年度航空集団 優秀航空群表彰式

(広報室寄稿)
「第5航空群は、我が国の安全保障上、極めて重要な最前線・最先端において南西諸島及東シナ海の防衛に努めており、厳しい任務の中、勤務に励んでいる隊員に「感謝」とともに「尊敬」している。引き続き任務に邁進してもらいたい。」と隊員に対し激励の言葉を述べられました。



表彰式が終わる、参列した隊員に対し、濱野群司令は「みんなの日々の努力がこのような形で認められたことを大変うれしく思います。引き続き頑張ろう！」と鼓舞されました。

令和8年7月16日、第5航空群(群司令 海将補 濱野 寛美)は、部隊運用、教育訓練、安全管理、士気規律その他隊務全般において極めて優秀な成績を収めた功績が称えられ、航空集団司令官(海将 金嶋 浩司)より、航空集団年度優秀航空群として表彰されました。

表彰式のなかで航空集団司令官は、「第5航空群は、我が国の安全保障上、極めて重要な最前線・最先端において南西諸島及東シナ海の防衛に努めており、厳しい任務の中、勤務に励んでいる隊員に「感謝」とともに「尊敬」している。引き続き任務に邁進してもらいたい。」と隊員に対し激励の言葉を述べられました。

海上自衛隊 第5航空群



第5航空群では、SNSを活用した情報発信を行っています。

隊員のオフショットや各種行事などが紹介されています。

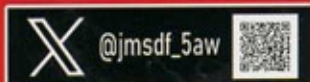
「X」や「Instagram」で「jmsdf_5aw」を検索し、是非ともフォローしましょう！

また、沖縄県に在籍する陸・海・空自衛隊が週替わりで自衛隊について放送する広報ラジオ「SDFアワー」で、第5航空群は「美ら海の防人」という番組を担当し皆様にお送りしています。

番組に関するお便り、ご質問要項及び年間放送スケジュールは、第5航空群ホームページで確認できます。

番組で紹介させた方には、もちろん第5航空群オリジナルグッズをプレゼントします！

下記のQRコードからアプリをダウンロードすれば、全国どこでもスマートフォンで聴けますので是非聴いてみて下さい。お便りもお待ちしております。



放送局(周波数)
FMレキオ(80.6MHz) / FM21(76.8MHz)
FMもとふ(78.2MHz)
毎週金曜日 20:00~21:00
※再放送日(FMレキオのみ) 日曜日21:00~22:00

「でいご」に関するご意見、ご感想、寄稿などがございましたら、
沖縄二火会事務局または第5航空群広報室までご連絡ください。

■ 沖縄二火会
事務局長 後関 光利
oknikakai@yahoo.co.jp

■ 第5航空群広報室
那覇市当間 252
5aw@inet.msdf.mod.go.jp
☎ 098-857-1191 (代)

※「沖縄二火会」WEB サイト
<https://okinawa-nikakai.com>

※「でいご129号」は、令和8年4月から令和8年8月までの行事等を基準に掲載しています。



海上自衛隊採用広報公式アンバサダー
「カイジョウエイ鋼」君